

【樹木・草花の部屋】

アルペンローゼ (ツツジ科ツツジ属 Rhododendron ferrugineum)

和名; アルペンローゼ **別名**; **英名**; snow-rose

ツツジ目 常緑性低木

原産地; ピレネー山脈 **花言葉**; **花の色**; 桃紅色、薄紅色



← 写真-1 アルペンローゼの全体

撮影日: 2013年07月15日

撮影場所: ミズリーナ湖(Lago di Misurina ドロミテ溪谷～北イタリア)にて

撮影者: Mさん

ドロミテ溪谷の東、トレチメ(2999 m)の山裾にある湖、ミズリーナ湖の湖畔を一周散策中に見かけました。アルペンローズ……。よく耳にする名

前ですが、実際に目にしたのは初めて。スイスを代表する高山植物の一つです。

写真-2、3 アルペンローゼの花 ⇒

撮影日: 2013年07月15日

撮影場所: ミズリーナ湖(ドロミテ溪谷～北イタリア)にて

撮影者: Mさん

アルプスの三大名花*の一つ。アルプス山脈、ピレネー山脈(フランスとスペイン国境)、ジュラ山脈(スイス)およびアペニン山脈(イタリア)北部の高山帯に育っているそうです。酸性の土壌を好み、1メートルほどの高さになり、夏の間を通して釣鐘型でピンクがかかった赤い花をつける。シーズンも終りに近づいているのか、今一つ、高山植物特有の華麗さが伝わってきませんでした。葉の裏に茶色の斑点があり、水分・養分不足?と感じられたからかもしれません。今回は同行中のご婦人に教えていただきました。

「Alpenrose」はドイツ語で、アルプスのバラの意味。英語では「snow-rose」(雪のバラ)の他に「rusty-leaved alpenrose」(錆びた葉のアルペンローゼ)とも呼ばれています。



【樹木・草花の部屋】

写真-4 アルペンローゼの葉 ⇒

撮影日：2013年07月15日

撮影場所：ミズリーナ湖(ドロミテ溪谷～北イタリア)
にて

撮影者：Mさん

葉は楕円形、裏側には錆茶色の斑点があり、これが学名の由来になっているそうです。

名前から受ける感じでバラの仲間と思われやすいのですが、実物を見るとすぐに石楠花に近いつつじ科の植物。花は石楠花より小ぶりでやや肉厚の感じ。スイスでは森林限界に近い森の中や、もっと上のアルプスの岩かげなどまで広く分布しているので、あちこちで見ることが出来るそうです。

アルプスでは冬季の雪崩やスキーで痛めつけられることもあってか、森の中の方が綺麗に咲いているようだとされています。

<ちょっと一言>

三大名花とは、ゲンチアナ・ベルナ (*Gentiana verna*)、エーデルワイス (*Edelweiss*)、アルペンローゼ (学名：*Rhododendron ferrugineum* ロードデンドロン・フェルギネウム) だそうです。

